



澄みわたった秋空に誘われて、御堂筋の銀杏のご機嫌伺いに来た。ビルの谷間からもれてくる陽光に照

らされた銀杏は、黄色に輝いていた。しかしまだ三分の黄葉であった。陽光を浴びて輝いている

ものが、もう一つ。女性の彫像「シル」(朝倉響子作)であった。筋肉質なプロポーションと何かを求めている

御堂筋のカーブ

る瞳が、そこであった。観る者に「生きていて良かった」と思わせる不思議さがある。昔、クロッキー(速写画)をしていた時に「女性のからだには、宇宙にある展望和洋食堂を備え、3階吹き抜けの講演場では、エンタツ・アチャコの漫才なども聞けるガスビル趣味

で活躍中という感じ。昭和の初めから、大阪の近代化に貢献してきたのである。資料によると、昭和初期のガスビルは大阪城の見え階吹き抜けの講演場では、エンタツ・アチャコの漫才なども聞けるガスビル趣味

「生きる」を感じさせる女性像

平野町3丁目交差点東側の角に立つと、足元では手の入った花壇が、向かいでは見慣れた大阪ガスのビルが迎えてくれた。全体は伝統的な建物のような趣だが、1階フロアは現役バリバリ

の会や名画鑑賞会が開かれていた。ガス器具陳列とガス灯の供給が初期の目的であったはずである。南館の建築物は、戦前のオールデコ様式の代表作とされ、「大阪ガスビルディング」の名称で国・登録有形文化財として登録されている。

戦時中は、コールドールで真っ黒に迷彩塗装して敵機を目をそらし、各室の防火シャッターを閉じて大空襲の戦火から免れた。終戦直後、進駐軍の接収による空白期間はあったが、文化

